

病院⇩診療所逆紹介可能疾患等

検索システム

藤 平 隆 宏

「各診療所が受け入れ可能な疾患は何か」が分かれば病院からの逆紹介が円滑に進むのではないだろうか。千福貞博元理事の提案により、以前に本会の各診療所にアンケートが行なわれました。その結果は事務局によってMicrosoft Excelのファイルにまとめられ、各病院に配布されました。

大阪府医師会地域医療活動支援事業研究助成に選ばれた、診療連携による在宅患者支援システムでは、大原裕彦専務理事を中心とし、在宅療養支援診療所届出の有無、往診の可否、かかりつけ医の可否など在宅医療に関するアンケートによる結果に加え、可能な診察・検査、処置・手術のアンケートも行ない、それらの項目から診療所を検索できる索引が、毎年発行される地域医療ハンドブックに掲載されるようになり診療連携が強化されました。

右記Excelファイルは、その後事務局で新規開設の診療所のデータが継続的に追加されていますが、以前にアンケートを行なった診療所では情報を更新していないため、データの正誤は

不明な状態で、実際に電話番号変更や名称変更も反映されていない状態でした。また、疾患等の数が多いため、Excelファイルは複数の表で構成されていて、複数の疾患を両方受け入れられる診療所の検索などは困難でした。そこで、病診連携委員会が病院から診療所への逆紹介を推し進めるべく、再度アンケートを行なつて情報更新するにあたり、データの利用に関して何か良い方法はないものかと事務・広報会議に打診がありました。

以前より名簿情報についても情報の一元化と、その情報から名簿やホームページの医療機関検索の情報出力をある程度自動で行なう仕組みを作るといった、情報の再利用と省力化を進めてきた流れで、この逆紹介可能疾患等も本会のデータベースに情報を集めることにしました。上記Excelファイルのデータは努力の結果すべてデータベースに収め、項目の増減・編集の機能も作り、今後の項目の変化やアンケート結果の更新も事務局の作業で行なえるようにしました。病院ではパソコンで業務を行なうことが多くなっているため、その出力情報は今回、ホームページのようにパソコンで検索できる形式としました。

検索システムを開くと(図1)画面左端には各科別にまとめた疾患などの項目が並びます。その中から診療所へ逆紹介したい患者の疾患などを選びチェックします。画面中央には旧北区を9エリアに区切った地図があり、その中から患者の住所の辺りのエリアを選びます。すると(図2)画面右には先程チェックした疾患などが受入可能な診療所のリストが表示され、画面中央にはそのエリアの詳細地図が表示され、その上にリストに表示されている診療所の場所が赤丸と番号で表示されます。疾患などのチェックは各エリア表示中に変更しても動的に内容が更新される(図3)ため、主疾患に加え他の疾患も一緒に受け入れられる診療所を絞り込んだり、選んだエリアに受入可能な診療所がない場合は、疾患のチェックをそのまま手前のエリア選択に戻り、続いて隣のエリアを探したり、同じエリアで疾患等のチェックを付け直して別の疾患を続けて調べたりも可能です。

病院へは過去のアンケート結果から出力したサンプルの検索システムをCD-ROMで配布し、頂いたご意見を元に手直しを行いました。診療所名の五十音検索もご意見により本会ホームページと同じものを表示できるように組み込みました(図4)。表示に使用するのはインターネット閲覧をするブラウザで、新しいソフトのインストールは行ないません。ブラウザは古いホームページもちゃんと表示できる規格になっているため、イ

ンターネットでホームページを閲覧する状態が続く間は永続的にこのシステムは使用可能だろうと思います。昨年アンケートを取り直してデータベースを更新し、その情報をCD-ROMに入れて昨年11月25日第49回病診連携委員会で各病院に配布しました。何ヶ月に1回など頻度が決まれば、今後も定期的にこのような更新を行なう予定です。

正式名称は長く使いにくいため、略称を定めるようにとの波多野泉会長のご指示に従い、北区医師会「KMA」、「診」療所検「索」を短縮して略称・愛称を「KMA診索(くま しんさく)」と決定しました。

この「KMA診索」が逆紹介推進に寄与することを願っておりますが、時代と共に必要な情報も変化していくことが予想されます。会員間の連携を進化させる上でこれからも様々なご意見を頂ければ幸いです。

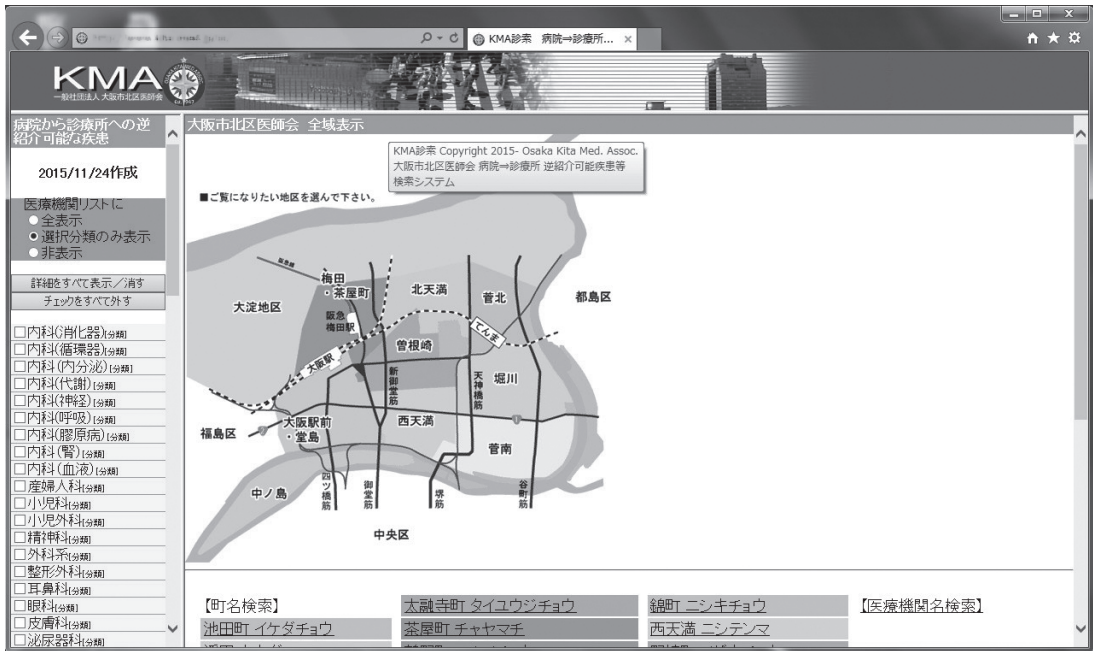


図 1



図 2



図 3



図 4